

NEWS LETTER

株式会社人財アジア 定期ニュースレター

vol.22

岡村の最近の注目ニュース ビジネス予備校近況レポート B-EAT 会活動報告 What's up?

2022年07月

2022/07

いつ始めても
遅すぎることはない。

世界も日本も 乱世の様相を呈してきた。

コロナで人との接点が薄くなっているだけに、一人で抱えてしまうとトラウマになりかねない悲しいニュースが続いている。心身の健康を上回るビジネスなし・生徒の皆さんには一人で自分を追い込みすぎないでほしいと切に願う。自分の力を客観視し、自分を使いこなすことが大切な局面だ。予備校で培った本音で語り合える仲間が助けとなるだろう。



コロナを経て、変わるもの、変わらないものは何か。

心の乱れやすい時期だからこそ、“会社は社員にとっていかなる存在なのか？”考え続けている。

会社との心理的距離感を個人的に振り返ると、若いころは、家庭と仕事を潔癖なまでに切り離すことにこだわっていた。30-40代、意外にも、仕事を通じた自己実現の喜びが感じられるようになり、ともに頑張った仲間と祝杯や慰みの盃を交わす回数が自然に増えた。50代起業後は、傍から見れば仕事一辺倒、でも仕事自体が自己実現であり、独立した子供たちからは短い時間の交流からでも大きな幸せを貰えるようになり、質的にはバランスの取れた人生になってきたように思う。

みなさんは会社に何を求めているだろうか？そして経営はその思いにいかに応えようとしているのか？

リモート勤務によって、私的時間の増加や仕事と直結しない人間関係の煩わしさからの解放にほっとしている人も少なくない。久しぶりに懇親会に出て、“やはりリアル！会社は仕事+α”と再確認している人もいる。各自が会社に求めるものは、人生観、性格、仕事内容等によって異なる。同じ人でも、年とともに好みが変わることもあるだろう。答えは一つではない。勤務方針が目先のトレンドに振らされると、企業の健康寿命は縮まってしまう。“α”の再定義と自社の存在意義（の変質）の再構築が急務となる。

本社ビルの持ち方も、会社との心理的距離感に大きなインパクトをもたらす。転職し新しい建物の前に立ちドキドキするシンボリックな光景は減少するだろう。同じ建物で働くことで、何となく知り合い、分かり合えていると思えた安心感（幻想）も薄れていく。それでは、物理的な器で醸成してきた一体感を、社員や会社はこれからいかに代替していくのか。大企業がこぞってオフィス・スペースを削減する中、その決断に至る経営哲学（の有無）に関心が高まっている。

まさに多様性の時代。ハイブリッドがこれからの主流となるだろう。かつて物理的に立派なオフィスに勤め、同じ会社の同僚と仲間意識で働いてきた私も、いまは当たり前のように、リモートとリアルを使い分け、緩やかな連合体を構成するメンバーと協働している。ただ、何事の決断においても、迷ったらリアルに寄せている。人間関係が希薄化する中、リアルな人とのつながりに価値を見出し、リアルから得られる喜びを伝える事を経営理念と考えているからだ。

今回で寄稿くださった鈴木氏は、コロナの日本における蔓延と3-4年続く悪影響をいち早く私にささやいてくれた方だ。“あなたとコミュニケーションしたい”との思いがビジネスの原点であるとの記載に目が覚めた。先を見通す力とブレない経営哲学に敬服する。

新型コロナウイルス感染症

2020年1月から始まったコロナ禍。当初は誰もがこんなにも長期化するとは想像していません。世間では、長期化するコロナ禍で観光業は大きなダメージといった話に枚挙にいとまがありません。ホテルの売上は、宿泊、宴会（含む結婚式）、レストランで構成されており、コロナ禍の中で、人々のライフスタイルの変化、インバウンドビジネスの喪失、さらにはビジネスでの出張や宴会利用が激減している影響は大きく、またこのコロナ禍の中にあつても、ホテルの新規開業が続き、

日本のホテル業の未来は明るい

オークラ ニッコー
ホテルマネジメント株式会社
常務執行役員 マーケティング部長
鈴木 隆太郎 氏



ホテルの供給量が増え続けています。さらには、エネルギーコストの高騰が追い打ちをかけるという状況です。ホテル業を取り巻く厳しい環境をあげればきりがありませんが、筆者は、このような状況の中にあつても、日本のホテル業の未来は明るいと言いたいと考えております。

日本という国

ホテルは、宿泊施設として海外からのお客様をお迎えすることは勿論のこと、グローバルに予約網の構築や海外事業者への業務委託をしないとイケませんので、ホテル業は意外と外国企業や海外の方との接点が多いと言えます。そのような中で、改めて気づくことは、日本という国、日本の文化の素晴らしさです。

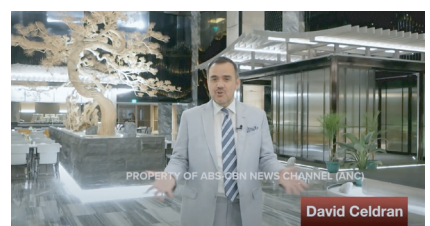
グローバル化

日本にも、外資系ホテルグループが次々と進出をしてくれており、日本のホテルもグローバルレベルで競争しないとイケない環境になってきております。また、私どものホテルグループもそうなのですが、日本から飛び出し海外でホテル事業を展開する場合もグローバルの環境下で競争することを意識せざるを得ません。海外で事業を展開する際には、「日本的なもの」これが最大の武器になります。

皆様は、SBNRという言葉を知っていますか。「Spiritual But Not Religious」の略で、特定の宗教への信仰を持たないが、物質的な豊かさ以外

の精神的な豊かさを求める信仰のスタンスのことです。米国の調査では20%の人がこれにあたる、と言われております。日本は特定の信仰を持たない人が多い一方で、宗教的な心を尊重しているという、世界でも珍しい宗教的価値観があり、それに根差した日本文化はSBNR的な性格を元来有しています。禅(ZEN)という言葉は英語で通じるほどです。日本の人気は、過性のブームでおわることなく、中長期的に訪日観光客は増加していくと考えられています。この日本という素晴らしい財産を、次世代にむけて守っていききたい、そう思っております。

があります。日本人は、「英語を話せるか？」と聞かれると、ほとんど話せる人でも、「I cannot speak English well」と答える人が多いのですが、海外の人は、「Yes, I can speak English」と答えるらしいです。



2022年5月にホテルオークラマニラがマニラに開業し、現地TVに取り上げられた様子

B-EAT 東京・福岡クラスの新しい幹事をご紹介します



B-EAT 東京クラス 第7期 幹事代表 藤野 友樹

終わってみるとあっという間の1年でしたが、多くの学びを得ることができ大変感謝しています。幹事という役割で引き続きEATに携わることができていることで、今後も皆様からの熱意や思い・リアリティーを感じるだけでなく、私自身の思いも伝えることができたいと思います。



B-EAT 福岡クラス 第5期 幹事代表 執行 泰弘

私はEATを受講したことで起業する決意ができました。ここには掛け替えない出会いと、自分の視野＝世界を大きく広げる学びがたくさんありました。ここで学んだ『情熱を燃やし続けること』、『考え抜くこと』のマインドを大切に、そして、B-EAT福岡5期幹事として、同期との横の繋がり、先輩方との縦の繋がり、東京校との斜めの繋がりを、今よりもっと強くするためにできることを、これからも考え抜いていきます。

特別寄稿およびWhat's up? に掲載して下さる方を募集しています。ご希望の方は事務局までお問合わせのほど、お願い致します。